

2015年10月5日(月)

ガスエネルギー新聞 掲載

新技術・新製品

だるまエナジー 4t車で実走行試験 軽油とLPG混焼トラック

クを用いて実用化を見据えた試験を行う。

制に対応するための複雑な排出ガス処理制御を搭載した「クリーン・ディーゼルエンジン車」をデュアルフェューエル化したトラックは日本にはまだない。軽油よりも割安なLPGガスの混焼割合を増やすことで、ユーザーは燃料コストを低減できる。クリーン・ディーゼルエンジントラックのデュアルフェューエル化技術を確立し、LPGガスの需要拡大を図る。

燃料車よりも出力は高くなり、燃料費を約15%低減できることを確認できた。スイッチの切り替えて、軽油単燃料での走行も可能。今年度の4t車では、高速運転時での混焼制御および混焼割合をどの程度維持できるかを実証する。実証は、トラックの低公害車化への改造などの事業を手掛ける城東自動車工場と協力して行う。三菱ふそうトラック・バスの中型トラック「フアイター」を改造し、エンジンはそのままで、LPGガスタンク、燃料噴射装置などを取り付けた。改造費は1〜2年で回収できる額まで抑えるようにする。実証で予定通りの成果が得られ、メンテナンス体制を整備した後、実用化を目指す。

だるまエナジーは、ディーゼルエンジンで軽油とLPGガスを混焼させる「デュアルフェューエルトラック」の実用化に向けた実証を行う。市販の4t軽油燃料ディーゼルトラックを改造してデュアルフェューエルシステムを搭載する。12月ごろに高速道路で実走行試験を行う予定だ。

ス事業者の構造改善に向けた取り組みを支援する経済産業省の補助事業に採択され、2t軽油燃料車を改造したデュアルフェューエル車の混焼割合、走行距離、燃料費削減効果、環境性能などを検証して成果をガス事業者、運送事業者らにPRした。今年度も同省の補助事業に採択され、中長距離を走る4t中型トラック